

伝統受け継ぐ 陸前高田の

3大 七夕まつり

本年も、わがまち自慢の夏の風物詩である3つの七夕まつりが、市内各所で行われました。

8月7日(木)に行われたのは、高田町の「うごく七夕まつり」。各地区を出発した大石、鳴石、駅前、大町、荒町、中央、長砂、和野、川原の9つの祭組は、本年も「七夕ロード」に集結。豪華絢爛な山車の練り歩きに合わせて、活気あふれるお囃子(はやし)がまちなかに響き渡りました。

同日には、気仙町の「けんか七夕まつり」も開催。かじ棒に乗って楽しむ子どもたちの姿が見られたほか、2台の山車を激しくぶつけ合う「けんか」は昼と夜にそれぞれ行われました。その迫力は本年も健在で、力強いぶつかり合いと太鼓の響きに、観客も沸き上がっていました。

3大七夕まつりのトリを飾ったのは、11日(月・祝)に行われた矢作町下矢作地区の「下矢作灯籠七夕」。天候にも恵まれたこの日は、老若男女の「よいい、よいい」のかけ声が時間を追うごとに大きくなっていき、地域を盛り上げました。夜の部では山車にろうそくの光が灯され、まちを温かく包み込みました。

高田町 うごく七夕まつり



気仙町 けんか七夕まつり



矢作町 下矢作灯籠七夕

